

# 令和5年度 学校関係者評価書(様式)

下線は前年度評価からの改善点 児:児童アンケート 保:保護者アンケート 教:教職員自己評価

鈴鹿市立玉垣小学校

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	関係者評価	今後の改善点																								
学力向上	<p>1. 授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語科を中心とした研修の推進と「めあて」「振り返り」の徹底                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→実践研究の実施(教100%)、「めあて」「振り返り」の徹底(教100%)</li> </ul> </li> <li>学調、みえスタの学力分析結果をもとにした授業改善の取組推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→学調結果、分析結果を活かした改善策の検討と実践(教100%)</li> </ul> </li> </ul> <p>2. 基礎学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が楽しくわかる授業の工夫と反復学習等を活用した取組の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→「分かりやすい授業を工夫し、基礎学力を身につけているか」(保90%以上)</li> </ul> </li> <li>家庭学習(児童が意欲的に取り組みたい課題の工夫)、補充学習の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→家庭学習の調査 年3回「家で勉強しているか」(保90%以上)、「家庭で十分に学習しているか」(保80%以上)</li> </ul> </li> <li>読書指導の充実(朝読による落ち着いたある1日の始まり)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ブックトーク 各学年年1回以上</li> <li>年間平均読書冊数 低学年65冊以上 中・高学年30冊以上</li> </ul> </li> <li>図書掲示物の定期的更新や図書館だよりの工夫</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教 「授業において『めあて』『まとめ』『ふりかえり』を徹底している。」肯定的回答89%(昨年度比-5p)が若干減少した。</li> <li>教 「全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの結果を分析し、改善策を検討して実施した。」肯定的回答73%(昨年度比-11p)が減少した。</li> <li>教 分かりやすい授業づくりについては100%の教員が「実践した」と回答している。</li> <li>教 学校全体で自校採点をすることで、「強み」と「弱み」を全体で共有することができ、その「弱み」を自分の担当学年の学習と関連づけて授業改善に生かすことができた。</li> <li>読書指導について、ブックトークは図書巡回指導員も活用しながら全学年で実施。(5・6年生は3学期)その他、図書ボランティアによる読み聞かせを定期的に実施している。</li> <li>一人当たりの年間平均読書冊数(12/8時点)                     <table border="1"> <tr> <td>1年生</td> <td>134冊</td> <td>2年生</td> <td>185冊</td> <td>3年生</td> <td>100冊</td> <td>4年生</td> <td>54冊</td> <td>5年生</td> <td>50冊</td> <td>6年生</td> <td>50冊</td> </tr> </table>                     年間貸し出し冊数(生徒計)※昨年度11月時点との比較                     <table border="1"> <tr> <td>1年生</td> <td>+368冊</td> <td>2年生</td> <td>+1280冊</td> <td>3年生</td> <td>+319冊</td> <td>4年生</td> <td>+442冊</td> <td>5年生</td> <td>-136冊</td> <td>6年生</td> <td>-624冊</td> </tr> </table> </li> <li>朝読だけでなく、休み時間にも本を読む姿が見られた。</li> <li>図書館だよりの発行(年3回)やファミリー読書の取組を行った。</li> <li>図書館内に、新刊図書や推薦図書を知らせる掲示物や、季節やイベントに合わせた掲示物の掲示。</li> <li>読書冊数や貸し出し冊数を見ると、高学年の読書離れが進んでいるように見える。しかし、実際はページ数の多い文庫本やフォントの小さい小説などを読んで楽しんだり、学級文庫の本を読んだりする児童も多い。図書委員会によるイベントもなかなか高学年の集客には繋がらなかったことが課題であった。</li> </ul>	1年生	134冊	2年生	185冊	3年生	100冊	4年生	54冊	5年生	50冊	6年生	50冊	1年生	+368冊	2年生	+1280冊	3年生	+319冊	4年生	+442冊	5年生	-136冊	6年生	-624冊	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に教職員対象の目標値100%の項目は、否定的回答をした教員が、何故達成できなかったか原因を調査し、改善をはかるべきではないか。</li> <li>9割の保護者が、先生方のわかりやすい授業への工夫を評価しており、これまでの工夫改善の継続の成果だと考える。今後も授業改善を重ね、学力向上につなげてほしい。</li> <li>ポイント減少の原因は何によるものか。評価基準が上がったから等の理由によるものなのか。</li> <li>ファミリー読書は、家庭へのよい啓発方法であると感じる。</li> <li>読書量は家庭環境の影響も大きいため、家庭へのさらなる啓発も必要だろう。</li> <li>貸し出し冊数だけでは読書について判断しにくい。高学年の貸し出し冊数の落ち込みの原因は何によるものなのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常学級担任では徹底できている。今年度は授業を担当しない教職員もアンケート対象としたため、ポイントが減少する形となった。</li> <li>引き続き全教職員で一丸となって、学力向上に取り組んでいく。</li> <li>引き続きわかりやすい授業づくりに取り組んでいく。</li> <li>ポイント減少の理由については、研修部を中心にしっかりと分析を行っているところである。その分析結果をもとに、職員会議や研修会を通して、問題点や改善策等を全教職員で共有・徹底し、課題解決に取り組んでいく。</li> <li>ファミリー読書は読書の取組として、今後も実施していく。</li> <li>図書室に新刊に入った本を紹介するなど、本に興味をもたせるような図書館だよりの発行を検討していく。</li> <li>高学年の貸し出し冊数の落ち込みについては、分厚い本や活字の多い本等を読む機会が増え、質の高い読書へと移行したことが理由としてあげられる。</li> </ul>
	1年生	134冊	2年生	185冊	3年生	100冊	4年生	54冊	5年生	50冊	6年生	50冊															
1年生	+368冊	2年生	+1280冊	3年生	+319冊	4年生	+442冊	5年生	-136冊	6年生	-624冊																
ICTの活用	<p>1. ICT活用による授業改善の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の授業への積極的な活用→教100%</li> <li>教員の活用差を解消するためのICT校内研修→年3回以上</li> </ul> <p>2. ICT活用による業務改善の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クロームブック等を活かした業務時間の削減→教100%</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通常授業を担当しない教員を除き、日々の授業でICTが活用された。</li> <li>教 「日々の授業でICTを活用したか」の肯定的回答87%(昨年度比-2%)</li> <li>ICT研修会の実施(年4回)。 ICT支援員や情報教育推進担当を講師として、教職員のICT活用育成のための研修会を実施した。</li> <li>クロームブックを活用し、打ち合わせ時間の削減を図った。</li> <li>業務における効果的なICT活用について職員からアイデアを募り取り組めるものから取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの使用教科、使用場面についても詳しく知りたい。</li> <li>今後もICT等を効果的に活用して、教職員の業務負担軽減につなげていってほしい。</li> <li>取り組めるものから活用し、よりよいスタイルを構築していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校だよりの」や授業参観でICT活用について、家庭や地域に知らせていく。</li> <li>先進校の事例も取り入れながら、引き続き教職員が働きやすい環境づくりを推進していく。</li> </ul>																								
	<p>1. 不登校の未然防止・早期発見・即時対応できる組織の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>欠席情報、児童観察・家庭訪問等の情報共有→教100%</li> <li>担任と児童支援担当、養護教諭、SC、SLS、管理職、関係機関との連携充実→教100%</li> <li>対象児童の<u>一時的な居場所作りの確保</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長欠児童宅への家庭訪問はどのようにしているのを知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童支援担当や担任で訪問を行っている。今後も長欠児童へ丁寧な対応をしていく。</li> </ul>																								

長欠減少	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童支援担当を中心に連携を図ることができた。7月から「ほっとルーム」を設立したことで、一時的な居場所作りができた。</li> <li>● 「ほっとルーム」について、年度途中の設立にのため指導人員の確保が難しかった。</li> </ul> <p>○ 管理職をはじめとして関係職員や関係機関との情報共有・相談については、情報供覧シートの活用や口頭による報告・連絡・相談により進めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報供覧シート回覧の対象者の検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ とても良い取り組みである。</li> <li>○ 先生方も大変であろうが、これからも不登校児への支援をお願いしたい。</li> <li>○ 朝、登校を渋る子も見かけるので、そんな子達にとってほっとルームの存在はありがたいと思う。</li> <li>● 朝の登校を見ていて、特に低学年の子の登校しぶりが気になる。先生方の体制づくりをお願いしたい。</li> <li>● 人員確保が課題になるだろう。定数法の改善等国への要望も根気よく継続していけるとよい。</li> <li>● カウンセラー等を活用して、ほっとルームから教室へ戻る手立ても考えていけるとよい。</li> <li>● 玉桜まちづくり協議会青少年育成部でも、不登校児への対応について学校に協力できることがないか検討中である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 引き続き「児童の居場所づくり」の保障について取り組んでいく。</li> <li>● 児童、家庭との関係作りを大切に、温かいクラスの雰囲気づくりを心掛けていく。</li> <li>● SLSとの連携を図っていく。</li> <li>● 継続していく。</li> <li>● ほっとルーム担当と担任が連携し、児童のペースに合わせた支援を考え、カウンセラー等の協力を得ながら今後について考えていく。</li> </ul>
------	--	--	--

地域連携	<p>1. 地域との協働による活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校運営協議会による熟議の推進(「通学路の安全」「家庭学習の定着・時間増加とゲーム・スマホ使用時間の減少」を協議)</li> <li>● 学習支援ボランティアの充実→各学年年3回以上</li> </ul> <p>2. 安全・安心の学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童の安全・安心を中軸とした地域や関係機関との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>→PTA・地域による登下校見守り(毎日)、防災・防犯訓練 年3回、</li> <li>「子どもを守る家」の点検年1回 通学路危険箇所点検年1回</li> </ul> </li> <li>● 全職員による自己評価及び学校関係者評価の実施→教100%</li> </ul> <p>3. 学校運営協議会の協議内容等の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→学校だよりや学校HPでの発信100%、<a href="#">HP更新の連絡</a></li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校運営協議会は年6回実施。あいさつ、家庭学習、スクリーンタイムの削減、校区の危険箇所について熟議を重ねた。</li> <li>○ 教「全職員による自己評価及び学校関係者評価の実施」12月に実施(100%)。学校関係者のコメントを真摯に受け止め、今後の改善点に活かしていけるよう、組織的に取り組んでいきたい。</li> <li>○ 学習支援ボランティアについては、希望学年には、年3回以上の協力を得て行うことができた。</li> <li>● 学年希望がおよそ3分の1程しか通らなかつた。学習支援ボランティアの増加が必要。</li> <li>○ 安心・安全見守り隊による登下校の見守りを毎日実施。PTA本部役員・地区委員による下校指導を年7回実施。地域の方の支援・協力を得た。</li> <li>● 正しい自転車の乗り方・マナーの徹底をさらに図っていくことが必要。</li> <li>○ 通団会を1回実施。危険箇所や「子どもを守る家」の確認を含めて指導できた。</li> <li>○ PTA地区委員による通学路を含む校区危険箇所点検を実施。</li> <li>○ 全校で避難訓練(地震、火災)を年3回実施。自他の安全を確保できる能力及び非常事態に際して、適切に判断し、対処できる能力・態度を身につけることができた。</li> <li>○ 教職員のみで不審者対応訓練を1回実施。不審者が侵入した場合の教職員の動きを確認し、刺殺の使い方を実践することができた。また、児童に不審者侵入時の避難の仕方や留意点を周知した。</li> <li>○ 引き渡し訓練を1回実施。緊急時における対応を確認することができた。引き渡しの時間を決めて、迎えのない児童は歩いて下校させた。その際、運動場ごとに集め、教職員が集合場所まで引率した。</li> <li>○ 学校HPでは、「学校だより」「学校運営協議会報告」を中心に発信した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校運営協議会の中で授業参観をし、子どもたちの成長した姿を見ることができてよかった。</li> <li>● 年1回でも、中学校と合同で集まって、意見や情報を交換してはどうか。</li> <li>○ ボランティアの要望があったほとんどの学級には、週に1回はボランティアに入ってもらうことができた。</li> <li>○ 来年度もボランティアが増えるように努力していきたい。</li> <li>● 学校や地域の中の見えない所で、子どもの安全確保や道路掃除等をしてみえる方もいる。そんな方々への感謝も伝える必要があるのではないか。</li> <li>● 通学路の危険箇所の安全対策について、行政や地域への要望は進んでいるか？</li> <li>● PTAやまちづくり協議会、自治会等と連携して避難訓練を実施してみてもどうか。</li> <li>● 多忙な中、更新するのは手間がかかると思うが、更新したらお知らせに載せるなどするとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後も開かれた学校としての取組を推進していく。</li> <li>● 中学校区の校長会で検討していく。</li> <li>● 地域コーディネーターを中心に、今後も家庭、地域の協力を得ながら進めていく。</li> <li>● 登下校指導等で会った地域の方々にも気持ちの良いあいさつしてお礼を返していけるように指導していく。</li> <li>● 交通安全教室以外にも、学期に1回程度、交通安全について学習する機会を設定していく。</li> <li>● 出張等で校外に出る場合に、パトロールを実施していく。</li> <li>● 地区委員や地域から得た情報を校内で共有するとともに、適宜地域と連携して要望をあげている。</li> <li>● 自治会等関係機関と今後検討していきたい。</li> </ul>
------	--	--	---

豊かな心の育成	<p>1. いじめが生まれにくい学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 仲間づくりを通じた人権教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>→「学校で友達と仲良く生活できているか」 95%以上</li> <li>「お子さんの交友関係は良いと考えるか」 90%以上</li> <li>「一人ひとりを大切に教育を行っているか」 90%以上</li> <li>「一人ひとりの良さを認め、自己肯定感を高める取組をする」 教100%</li> </ul> </li> <li>● 担任、相談、養護、児童支援、管理職、SC、関係機関等とも連携した相談体制・見守り体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>→「困っているときや相談したいときに先生に話ができるか」 95%以上</li> </ul> </li> <li>● あいさつ運動の推進(児童が中心となる取組+月3回教師によるあいさつ運動) <ul style="list-style-type: none"> <li>→「学校であいさつをしているか」 95%以上</li> <li>「お子さんは家庭・地域であいさつをしているか」 90%以上</li> </ul> </li> <li>● 多文化共生教育の推進→各学年の取組 年1回以上 <ul style="list-style-type: none"> <li>国際週間への参加 全校児童70%以上</li> <li>JSL保護者会 年1回 保護者参加率30%以上</li> </ul> </li> </ul> <p>2. 特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別支援教育の視点を活かした「分かりやすい」授業づくり→教100%</li> <li>● 支援会議、ケース会議、教育相談の充実</li> <li>● 交流学級担任会、特別支援教育に関わる研修会の実施→各年1回以上</li> <li>● <b>配慮が必要な児童に対する支援部を中心とした早期支援体制の構築</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多くの子ども達が、楽しく学校に来ることができることは評価できる。</li> <li>● 楽しく学校に来ているか？の問いに、昨年度と比較して、児童・保護者共に否定的回答が微増している点が気になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童が「楽しかった」と実感できるような「仲間づくり」や授業を引き続き進めていく。</li> </ul>
---------	---	---	--

<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 友だちとの交友関係については、肯定的回答が<math>\frac{1}{2}</math>97%(昨年度比±0p)、<math>\frac{1}{3}</math>93%(昨年度比±0p)であった。仲間づくりを意識した取組(授業・作文・話し合い)を今後も推進していく。</li> <li>○ 「一人ひとりを大切にした教育を行っているか」について、肯定的回答が<math>\frac{1}{2}</math>90%(昨年度比±0p)、<math>\frac{1}{3}</math>100%教師であった。自己肯定感を高める取組をしてきた。</li> <li>● 「困っているときに先生に相談できる」について、肯定的回答が<math>\frac{1}{2}</math>82%。引き続き教員と児童の関係づくりを大切にできる研修を実施していく。</li> <li>○ 教員の子どもの見方や捉え方の視点を大切に、実践力を向上させていくために、実践交流や研修を行ってきた。</li> <li>○ 児童が中心となる取組として生活委員会を中心に、日常的に昇降口や教室でのあいさつ運動を実施。月3回教師によるあいさつ運動を実施。</li> <li>● <math>\frac{1}{2}</math> 肯定的回答91%、<math>\frac{1}{3}</math> 肯定的回答86%であり、目標を達成することはできなかった。</li> <li>○ <math>\frac{1}{3}</math> 肯定的回答が昨年度より+4ポイント増加しており、地域でのあいさつは少し増えた。</li> <li>● <math>\frac{1}{2}</math> 「していない」「あまりしていない」の否定的回答が、前年度に比べて+2ポイント増加。あいさつの意義を伝え、子どもたちが自然にあいさつができるようにしていきたい。</li> <li>○ JSL保護者会は新入生入学説明会に合わせて実施(新入生保護者参加率100%)。</li> <li>○ 国際委員会主催で開催した国際週間については多くの子どもたちが参加し国際的な関心が高まった。</li> <li>○ 外国語活動、外国語では、いろいろな国を調べたり、行事を紹介したりして多文化に触れた。</li> <li>● JSL保護者会については、参加率が低さからあり方の再考が必要。JSLの保護者と日本人の保護者が繋がるような取組を構築していく。</li> <li>○ 特別支援教育の視点を活かした「分かりやすい」授業づくりについては、肯定的回答が<math>\frac{1}{2}</math>100%(昨年度比±0)。</li> <li>○ 支援会議、ケース会議については年間110件実施。</li> <li>○ 教育相談については年間14回を実施。(12月13日現在60件の相談を受けている。)</li> <li>○ 交流学級担任会、特別支援教育に関わる研修会は計9回実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子ども達の交友関係に関わって児童、保護者共に、9割以上が肯定的評価をしており、日頃からの取組や関係機関との連携の成果だと感じる。</li> <li>● 否定的回答をした児童との関係を重視してほしい。</li> <li>● 担任に相談ができない児童や保護者への対応ももう少し考えてほしい。</li> <li>○ あいさつができる子が少しずつ増えてきている。</li> <li>○ 来校時に児童に会うと、いつも大きな声であいさつをしてくれている。</li> <li>● 朝の民生委員の方々とのおいさつは、無理にあいさつをさせている気もする。</li> <li>● あいさつをする子、しない子と二分化が進んでいる。</li> <li>● たくさんの会議をこなしてもらっており、この数字からも先生たちの多忙さが伺える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人ひとりの良さを認め、自己肯定感を高める取組を工夫し、引き続き進めていく。</li> <li>・ 教職員が児童・保護者・地域と良好な信頼関係を築いていけるような体制づくりを進めていく。</li> <li>・ 教師の実践交流や研修の機会をもち、指導の向上を図っていく。</li> <li>・ 教師主導のあいさつ運動に子どもたちを巻き込んで広げていく。</li> <li>・ 「違い」とらわれることなく、つながっていくとする共生教育を推進していく。今年度より1年生から6年生までを見通した系統的な取組を実践している。</li> <li>・ 授業参観後の保護者会にJSL保護者の参加を促していく。</li> </ul>
<p>豊かな心の育成</p> <p>1. 体育・保健指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・俊敏性や持久力を高める運動や取組の実施</li> <li>・体力テストの実施→結果の県平均以上</li> <li>・養護教諭・栄養教諭と連携した健康教育・食育の推進→各学年年1回以上</li> <li>・命・環境の大切さを学ぶ機会の確保→各学年年1回以上</li> </ul> <p>2. キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すずか夢工房や地域人材活用の授業実践(「出会い学習」の充実)→各学年年1回以上</li> <li>・キャリア・パスポートの作成→各学年年1回以上</li> <li>・異学年交流や児童会活動等の推進→各学年年1回以上</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学年で体力テストを実施。1校1運動の取組でなわとび運動を実施。体力テストの結果、シャトルランでは6年男子、反復横跳びでは2年男女の平均値が目標値を上回った。全学年で俊敏性や持久力を高めることを目指し1校1運動に取り組んだり、子どもたち主体で「なわとび記録会」を実施したりした結果、児童の体力向上への意欲を高めることができた。</li> <li>○ 養護教諭による保健指導を年2回実施。</li> <li>○ 栄養教諭と担任が連携した食育の授業を年2回実施。</li> <li>○ 6月の環境週間・11月のいじめ防止月間に合わせて各学年で「環境・命の大切さ」を学ぶ授業を実施。</li> <li>○ 日常的にペア学年での掃除を実施。</li> <li>○ 体力テストや縄跳び、人権学習、読み聞かせなどの異学年交流を年1回以上実施。</li> <li>○ クラブや委員会活動を通して、異学年交流を実施。</li> <li>○ 「出会い学習」を中心とした人権総合学習の中で全学年ですずか夢工房・地域人材を活用した体験的授業を実施。「出会い学習」の充実を図ることができた。</li> <li>○ キャリアパスポートについては学年末に各学年で実施。子どもたちが主体的に一年間をふりかえり今までの自分と見比べて成長を確認することができた。</li> </ul> <p>健康でたくましく生きる力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍による子ども達の運動不足が心配されていたが、子ども達の体力は回復してきているように感じる。</li> <li>○ なわとびは、手軽で取り組みやすい運動だと思う。</li> <li>● 季節に応じた運動や、年間を通した取組、取り組み方の工夫も必要である。</li> <li>● 朝食を食べずに登校している子や、必要な栄養を取っていない子はいないか等、保護者向けの食育指導も必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間計画を再度確認し、児童の実態に応じた取組を行っていく。さらに、なわとび運動など手軽に行うことのできる取組を今後も継続して実施していく。</li> <li>・ 朝食の大切さや栄養の必要性について、児童に対しては、食育でも保健学習で指導している。保護者に対しては、保健日より給食により発信を継続していく。</li> <li>・ 今年度は、「出会い学習」をどの学年も取り組むことができた。今後も地域の人の生き方や地域をよりよくしようとする姿勢などからも学び続けていきたい。</li> <li>・ キャリアパスポートで自分の1年を振り返り、今までの自分と見比べて成長をより感じ取れる取組にしていきたい。</li> </ul>